

テクノネットワーク

滋賀県工業技術センター 〒520-30 栗太郡栗東町上砥山232
TEL 0775(58)1500
INDUSTRIAL RESEARCH CENTER OF SHIGA PREFECTURE

創刊号
1985.

工業技術センターオープン

栗東町上砥山地先の緑の森に経済界の期待を担って滋賀県工業技術センターがオープンしました。

近年、マイクロエレクトロニクス、新素材、バイオテクノロジー等先端技術の進展は誠にめざましいものがあります。当センターはこれら先端技術等発展に対応した県内企業の技術開発力向上を図るため、県が産業界や学界と相携えて研究、試験、指導、人材育成、企業交流、情報提供等の事業を行う、いわば21世紀に向けた本県の工業技術振興の拠点として設置されたものです。

当センターには、今後ますます利用分野が広がるとみられる電子応用、新素材等6部門を置き、これを研究、試験、指導といったハード面はセンターで、研修、企業交流、情報提供といったソフト面は第三セクター方式で設置された財団法人滋賀県工業技術振興協会が担当し、両者が一体となって県内工業の振興に取り組もうとするシステムです。

そして、機器を含めたハード、ソフト両面とも「地域に開かれた工業技術センター」として運営して参りますので企業の皆様方は、「自分たちの工業技術センター」としてはぐくみ、また大いに活用していただくことを期待しております。

21世紀に向けて

滋賀県工業技術センター

所長 畑 信 夫

今日、わが国工業をとりまく環境の変化は著しく、需要の多様化、技術革新、高度情報化などの進展に伴う新しい流れが、大企業のみならず中堅中小企業にも波及し、これらに対処するため、技術ニーズも多様化、高度化、複合し、高度な総合的技術の対応が求められてきております。

本県の工業においても、この流れが表面化してまいり、先端技術の導入、多品種少量生産への対応、情報収集の強化、人材育成、技術の向上等ソフトな経営資源の充実に積極的に取組まなくてはならない状況にあります。

こうした情勢に対応し、県内企業の技術開発力の向上を図るため、電子、機械、化学、食品、デ



ザイン等広範な分野を対象とした総合的な試験、研究、指導、研修等を実施する工業技術センターが、関係各位のお力添えにより、オープンすることができました。

当センターにおきましては、業界のニーズに対応した工業技術の開発、試験、研究をはじめ、各種の技術指導、相談を実施するとともに産・官・学が一体となって研究開発した研究成果の移転に積極的に取組んでまいります。

また、当センター内に第三セクター方式で設置されました財団法人滋賀県工業技術振興協会において、技術者の研修、情報の提供、および技術交流・人的交流の促進事業等を当センターと一体的に運営することにより、ソフトな技術開発基盤の強化を図ってまいります。

今、まさに誕生したばかりの工業技術センターではございますが、「地域に開かれた工業技術振興の拠点」施設として各業界のニーズに対応し、ポテンシャルの向上を図るべく努力いたす所存でございますので、広く関係各位の一層の御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域に開かれたユニークな運営

本県工業の技術開発力強化のための基盤を整備し、創造的技術開発の促進を図るため、可能な限り企業の方々が自由に利用できる「地域に開かれた」施設運営をめざしていきます。

まず、第一に産・官・学の拠点にするため、企業や学職経験者との連携に力を入れていきます。

第二には、中小企業と大企業との連携を図ることにより技術の交流や移転のためのパイプ役を努めます。

第三番目には、企業の主体的な参加を得て、センター運営を行っていきます。

したがって、こうした業務を行うにあたって、センターの中に、人、物、情報といったものの交換を行う場としての交流サロンを設置するとともに、企業の社員、従業員の教育研修の場として大、中、小三つの研修室を設けています。

また、企業みずからの研究開発に必要な試験研究機器もできるだけ開放して、最大限にこれを使

用してもらえよう運用をして、他の公設試験場とは一味違ったユニークなセンターにしていくつもりです。

本年3月に設立した財団法人滋賀県工業技術振興協会を中心に、教育・研修や情報、交流といった機能の面で効果を発揮していきます。

また、急速な技術革新に対応した工業技術の振興を図り、中長期にわたる技術展望を開くため、産業界および学識経験者等を入れた滋賀県工業技術振興懇話会を設置し、これらの意見提言を得ながら、より本県工業技術の振興に効果的なセンター運営を行っていきます。



盛大に開所式 7月29日

工業技術センターはさる7月29日(月)大阪通商産業局長、滋賀県議会議長はじめ関係者200名の列席のもと開所記念式典が盛大に開催され、オープン致しました。

また翌日の施設一般公開には県内企業の技術者等600名の見学者があり、当センターに対する関心の深さと期待の大きさを表わしました。



滋賀県工業技術振興懇話会名簿

(敬称略・順不同)

学 識

岩田 一 明 (神戸大学教授)
 越後 和 典 (滋賀大学教授)
 木村 光 (京大教授)
 手塚 慶 一 (大阪大学教授)
 山田 始 (滋賀県立短期大学教授)

産 業 界

吉田 和 正 (松下電器産業(株)事業部長)
 山本 和 夫 (日本アイ・ビー・エム(株)工場長)
 井上 正 一 (東レ(株)事業場長)
 小川 彰 三 (湖北精工(株)社長)
 木村 新 太郎 (木村機械建設工業(株)社長)
 岸田 定 (安曇川電子工業(株)社長)
 崎山 九二夫 (立石電機(株)事業所長)
 辰巳 又 男 (滋賀県食品産業協議会会長)
 西河 勝 男 (朝電機製作所社長)
 三宅 信 (関西アルミ(株)社長)

行政その他

安本 皓 信 (大阪通商産業局長)
 速水 諒 三 (大阪工業技術試験所長)
 高田 三 郎 (助滋賀県工業技術振興協会理事長)
 飯田 志 農 夫 (滋賀県商工労働部長)
 畑 信 夫 (滋賀県工業技術センター所長)
 高 井 八 良 (滋賀県商工労働部商工課長)

技術普及講習会開催

企業の技術開発力を向上するとともに、工業技術センター設備機器の利用促進を図るため技術普及講習会を次のとおり開催します。

講習機器	開催日	時 間	定員	内 容	担当科	備 考
50 t 万能材料試験機	12月17日(火)	AM 10:00 ~ PM 5:00	10名	座学と実習	技術 第一科	
表面あらさ測定機	12月18日(水)	〃	〃	〃		
真円度測定機	12月19日(木)	〃	〃	〃		
三次元測定機	未定	AM 10:00 ~ PM 5:00	5名	MICRO PACK 100の座学と実習		部品図面解読 可能者に限る
動電型振動試験機	応募者に追 って連絡さ せて頂きま すので申し 込んで下さ い。	〃	10名	座学と実習	技術 第二科	
インストロン型万能試験機		〃	5名	〃		
フーリエ変換赤外分光 光度計		〃	〃	〃		
熱分析装置		〃	〃	〃		
ピッカー式高温硬度計		〃	〃	〃		
酵素・窒素・水素同時 定量装置		〃	〃	〃		

○多くの企業に受講いただくため、同一機器について1企業1名とします。

○受講希望者多数の場合は別途機会を申ける予定です。

申し込みとお問い合わせ

申し込みには企業主の推薦状が必要です。工業技術センター ☎代0775(58)1500

既に300件を超える利用!!

当センターの業務が開始し、はや4ヵ月を経過しようとしています。開始後4ヵ月(8月~11月)間の各部門別の技術相談、試験分析等の業務は下記のとおりです。

技術的な問題があれば何でもお気軽に御相談下さい。

区分	技術相談指導	件数	合計	試験分析・設備使用	件数	合計
電子応用部門	マルチの電流制御について	1		低温恒温恒湿槽による環境試験	4	
	海中で使用するエネクターの絶縁性試験について	1		絶縁材料の表面抵抗、体積抵抗率の測定	8	
	パソコン利用法について	5	26	絶縁材料の耐電圧試験	8	26
	PASCAL言語について	12		電気機器の特性試験	1	
	JIS問い合わせ	2		その他	5	
	その他	5				
機械部門	FAについて	3		三次元測定機による形状測定	23	
	濃度センサーの研究について	1		三次元測定機による直角度円錐角の測定	2	
	流量係数の補正、風洞実験等について	1		各種部品の真円度測定	16	
	亜鉛メッキ鋼板のプレス加工について	1		シュウ酸アルマイト処理後の膜厚測定	2	
	カーボン棒の引張り強さについて	1		機械部品の表面粗さ測定	1	
	振動試験について	5	36	万能投影機によるカッター刃先形状の測定	4	76
	ラベルのはがれ強度について	1		鉄板のスポット溶接部の強度測定	1	
	バルブの高温における試験について	1		万能材料試験機による曲げ試験	1	
	溶接技術について	2		マンホールの蓋の引張り、硬さ試験	1	
	JIS問い合わせ	2		ピストン、クランクシャフトの実物疲労試験	1	
	その他	18		その他	24	
工業材料部門	金属の腐食について	6		金属分析	11	
	〃の分析について	8		金属組織検査	30	
	〃の組織について	7		金属の硬度試験	4	
	〃の熱処理について	4		その他金属関係	7	
	〃の熱膨張について	2		高分子の引張り、圧縮、曲げ試験	10	
	その他金属関係	13	79		81	
	高分子の強度について	11		高分子分析	1	
	〃の分析について	3		〃 耐候性試験	2	
	〃の耐候性について	3		フィルムのガス透過率測定	2	
フィルムのガス透過率について	3		高分子の熱変形温度測定	1		
	熱分析について	2		その他高分子関係	4	

区分	技術相談指導	件数	合計	試験分析・設備使用	件数	合計
工業材料部門	高分子の衝撃について	1		カーボンの物性試験	1	
	その他高分子関係	7		ガラスの熱伝導率測定	2	
	コンクリートの耐候性について	2				
	カーボンの物性について	4				
	その他無機関係	3				
化学食品部門	近赤外線の透過率	2		近赤外線の透過率測定	2	
	環境測定について	4		定性試験	1	
	食品分析について	7	24	その他	22	25
	デンプンの粘度性について	3				
	食品保存について	1				
	その他	7				
合計		169		208		

//センター利用// //インフォメーション//

センターの設備機器を使用してみませんか。

皆様の会社や事業所において、新製品開発や技術開発を行う場合、高度な試験研究機器を必要とするが、使用が短時間であったり、高価なため購入できない等で困っていることはありませんか。

滋賀県工業技術センターでは、そのような方のため設備機器の開放利用を進めています。是非御利用下さい。

手続き

電話にて利用日時等を予約していただき、申請書により受付いたします。

料金の支払方法

利用した日に利用料金(別冊使用料一覧表のとおり)を現金で納入していただきます。

施設の概要

敷地面積 約33,200m²

建築面積 約 5,150m²

研究管理棟 鉄筋コンクリート造 2階建一部 5階建約4,300m²

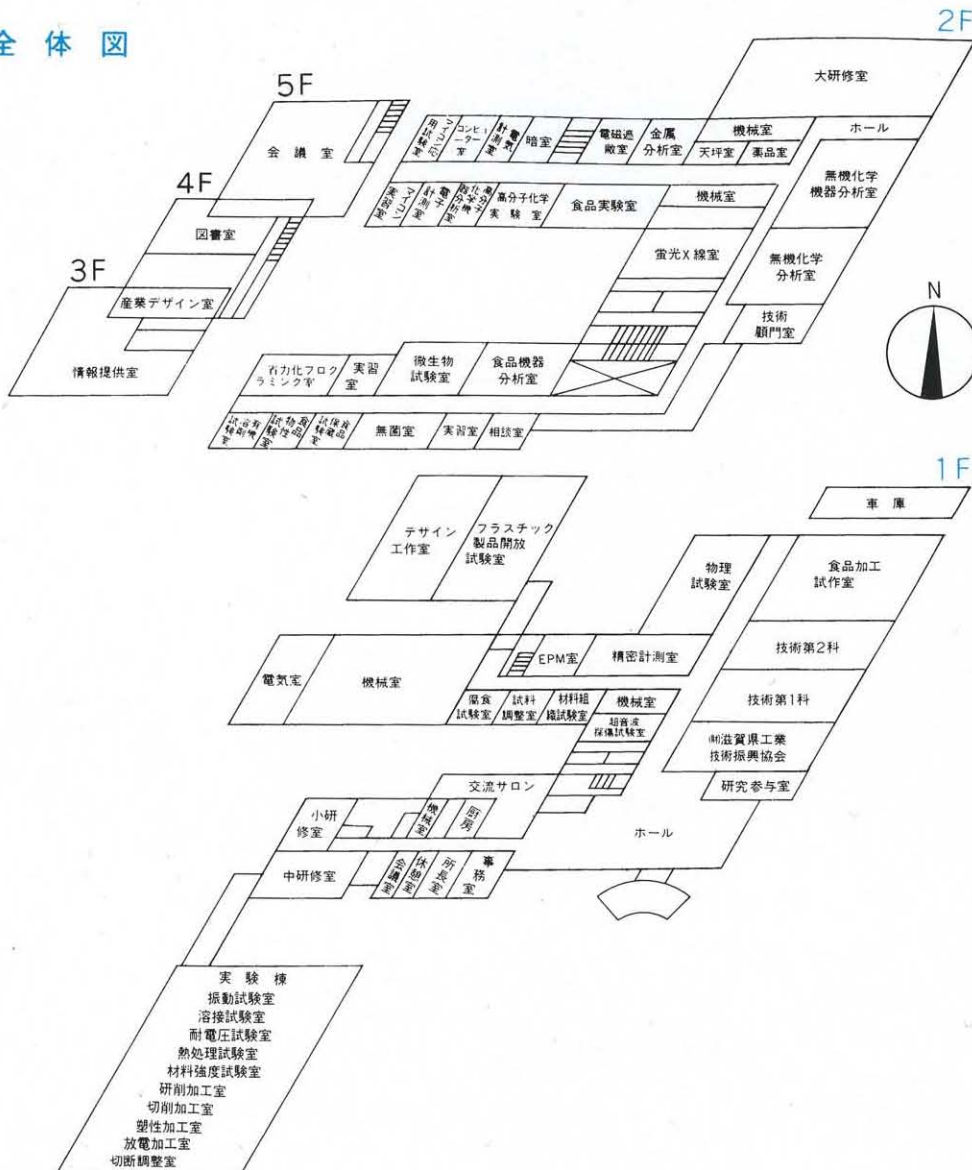
実験棟 鉄筋コンクリート造平屋建約700m²(日本自転車振興会補助)

別棟 鉄筋コンクリート造平屋建約150m²

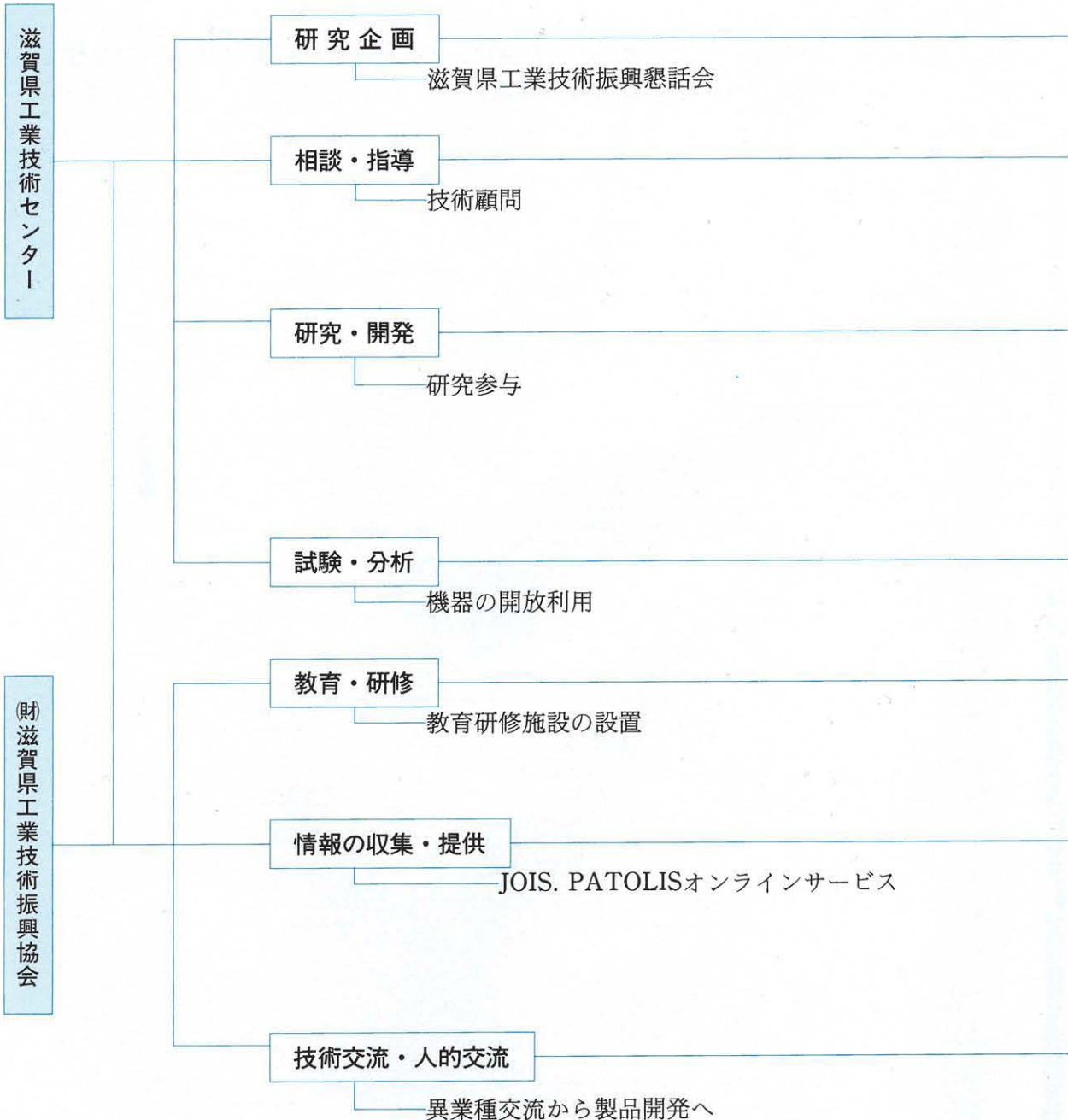
建設年度 昭和59年7月着工、昭和60年3月完成

総事業費 約34億円〔土地、建物および試験分析機器整備費(昭和59年度~61年度含む)〕(日本自転車振興会補助)

全体図



運営体系と事業内容



滋賀県工業技術センターと、(財)滋賀県工業技術振興協会は、利用者のニーズに柔軟かつ機動的に事業を展開するため、一体的事業運営を展開していきます。

県内企業の技術開発ニーズ、シーズの把握をはじめとする調査研究を実施するとともに、これらを踏まえた研究テーマの設定および研究計画を作成します。

新技術や新製品を開発するための相談や指導に応じるとともに、既存技術の適用指導を行います。また、技術相談・指導の強化を図るため大学等の学識経験者を技術顧問として招きます。技術課題に対する巡回技術指導や技術アドバイザーを派遣しての技術指導も行います。

県内中小企業が社会の技術進歩に的確に対応していくために、既存技術や先端技術の移転を前提にした研究や将来的に有望な産業の創出育成に必要な技術課題等、公益的・先導的に行なわなければならない研究を行います。また、工業技術センターの設備を開放し、民間による自主研究・共同研究を促進します。

大学等から研究参与を招き、試験研究体制の強化を図っていきます。

中小企業が単独では備えられない試験・分析機器を備え、企業の製品開発や改善のための試験分析を実施するとともに、これらの機器を開放して検査方法についての指導も行います。

技術改善・技術開発を担う人材を育成するための技術者の教育研修を行なうとともに、企業の経営者・管理者に対しても新鋭機器を利用した研修を実施します。また、講師として大学、研究指導機関、民間企業等の学識経験者を積極的に確保して高度な技術者の養成を行います。

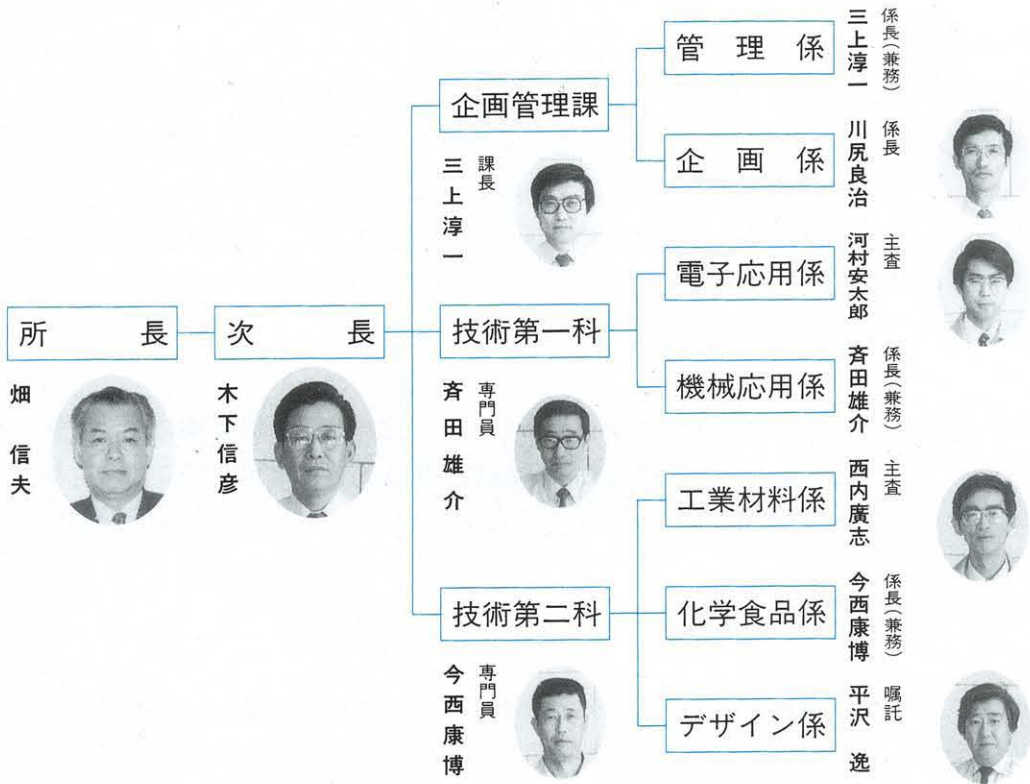
新しい技術動向や研究成果などの情報を収集整備して企業に提供するとともに、技術ニュース・センター報告・年報等により試験研究の成果を公表します。また、日本科学技術センター(JOIS)日本特許情報機構(PATOLIS)等とのオンラインを整備しており、即座に技術情報サービスが受けられます。

産・官・学に技術交流・人的交流を図り、共同技術開発を促進するため技術交流プラザや講演会・セミナーを開催するとともに、展示会・研修会等を開催します。

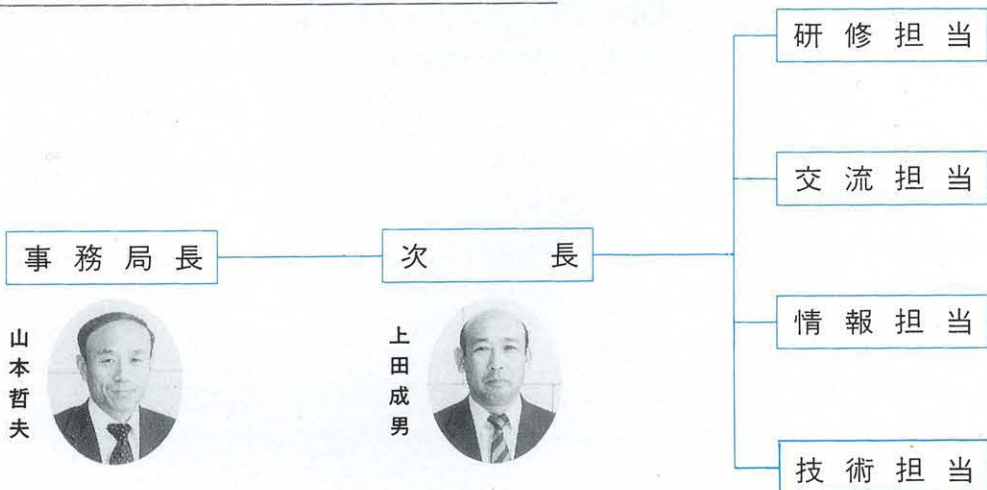
組織と業務内容

滋賀県工業技術
機動的に事業を展

滋賀県工業技術センター



(財)滋賀県工業技術振興協会



センターと、(財)滋賀県工業技術振興協会は、利用者のニーズに柔軟かつ開するため、一体的事業運営を展開していきます。

主事
中西洋子



主査
山本和好



技師
池田滋亜



技師
川崎雅生



技師
清水茂



技師
矢田稔



主査
中山勝之



(兼務)
上田成男



主事補
篠原弘美



嘱託
山村史郎



技師
桜井淳



技師
月瀬寛二



技師
山中仁敏



技師
松本正



- 予算の編成・執行、庁舎・物品管理について
- 給与、その他庶務的事項について

- 試験・研究の企画調整について
- 工業技術の調査研究について
- 工業技術相談指導等の受付について
 - ・技術相談
 - ・各種試験、化学分析、測定
 - ・技術アドバイザー・巡回技術指導
 - ・センターの設備利用

- マイクロコンピュータ等のハードウェア、ソフトウェア技術について
- 通信情報処理技術について
- センサー、インターフェイス等の応用技術について
- 電子機器、部品の特性について

- 機械の自動化技術および省力化技術について
- 機械や部品の機械的性質と利用について
- 機械加工および溶接技術について
- 機械や部品の精密加工、測定、検査技術について

- 金属材料の特性と利用について
- 金属材料の組織、熱処理技術について
- 高分子材料の特性と利用について
- 複合無機材料の特性と利用について

- 工業原材料製品などの化学分析技術について
- 食品の物性と利用について
- 食品の加工保存技術について
- 微生物の工業的利用技術について

- デザイン技術について

- 工業技術者研修等の実施について

- 技術交流プラザ、講演会等の実施について

- 技術情報の収集、提供について

- 研修、交流、情報の技術助言指導について

情報活動

— 特許情報や商品開発情報の提供。

企業が求める技術情報や特許情報を、ジョイス（JOIS・日本科学技術情報センターオンラインシステム）やパトリス（PATOLIS・日本特許情報機構オンラインシステム）の活用を図りつつ提供して参ります。以上の他、「技術情報誌」を滋賀県工業技術センターと一体となり発行して行く予定です。



情報検索サービス

— JOIS PATOLIS を利用して下さい。—

皆様の会社や事業所において、新製品開発や技術開発などで文献調査を行う場合、大量の雑誌や抄録誌を長い時間、多くの労力をかけて探していたり、探しても見つからず困っていることはありませんか。

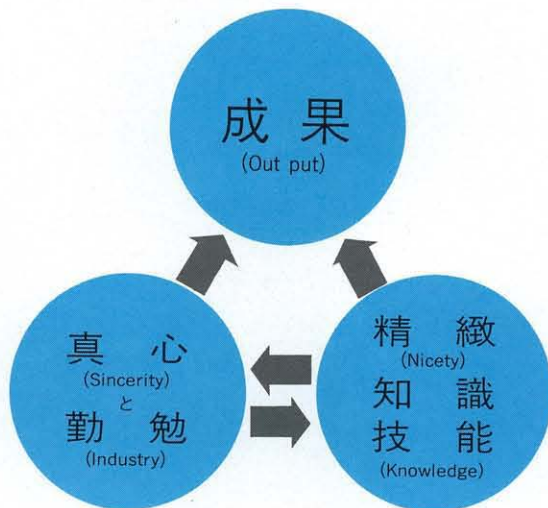
工業技術振興協会では、そのような方のために、技術相談、技術指導の一環として、多くの情報の中から短時間に、目的の文献を検索できるシステムを導入しています。これにより、日本科学技術情報センター（JOIS）および日本特許情報機構（PATOLIS）のオンライン情報検索システムの端末機を使って、求める情報を即座に入手するためのお手伝いができます。

〈手続き〉

電話にて利用日時等を予約していただき、依頼書により受付いたします。

料金の支払方法

利用の後日、利用料金および電話料金を銀行振込みしていただきます。



滋賀県技術交流プラザ

最近、特に異業種の交流が盛んになって来た。民間では、昭和四十五年から、また国では、中小企業庁が昭和五十六年から実施しているが、国民のニーズの多様化、高度化と言った環境の大きな変化に対して中小企業が的格に対応するためには、独自の力では限界があり、他企業と連携の上に協調的な供給体制すなわちシステム・アプローチが非常に重要であることに起因する。滋賀県も昭和六十年四月に当協会発足と同時に、滋賀県技術交流プラザとしてこの仲間入りをし、先ず工業集積度の高い湖南地域から実施し、全等的なものへと輪を広げていく予定である。しかし他府県の例でも見られるように、成功事例としては数少い中で、企業のニーズ、シーズを引き出し如何にオルガナイザーとしての役目を果たして行くか工夫と努力を要します。幸い参加企業28社の中から代表幹事（山科精器（株）池田社長、副幹事（株）石山製作所松田専務）を選び、常に連携を保ちながら次のステップを前提として進めている。

一、人の和づくりに徹す
イ、会議後出来るだけ懇談会を持つ
ロ、宿泊研修を早期に実施する

二、おたがいを知り合う
イ、工場見学を実施する
ロ、両社の製品、技術の紹介
ハ、出来るだけ問題点を出し合う
三、最初から成果を求めない
四、小グループでの分科会を設ける
五、情報の交換
六、技術の相互利用

その外、十一月には近畿通産局管内の異業種の交流会が開催された。当会からも代表幹事が出席し、他府県、市のプラザグループと情報交換の場が設けられた。また九月二十六日には全国異業種協議会が設立され、本会からは代表幹事と副幹事が正会員として参加、全国ベースでの技術交流が進められようとしている。現在までの滋賀県技術交流プラザの経過は次の通りである。

昭和六十年七月十五日
技術交流プラザ幹事会
同 八月 二日
第一次技術交流プラザ
同 九月五〜六日
第二次技術交流プラザ宿泊研修
同 九月十四日

技術交流プラザ幹事会

同 十月 三日

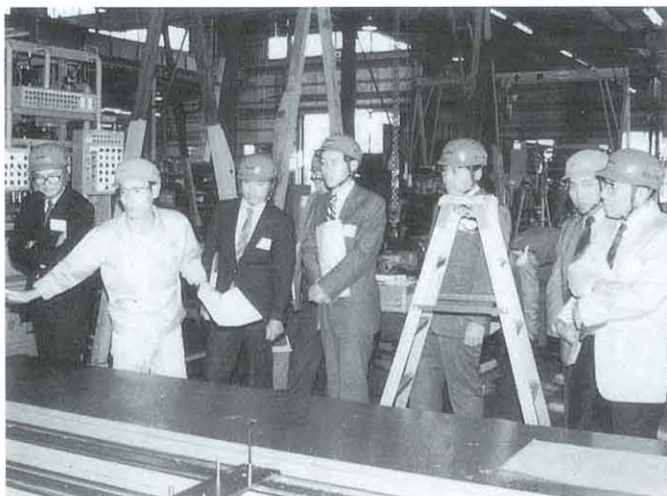
第三次技術交流プラザ（工場見学会）

同 十一月 一日

第四次技術交流プラザ（工場見学会）

同 十一月十六日

技術交流プラザ幹事会



紙
上
座
談
会

第1回技術研修を

受講して

（新素材加工技術コース
60・9・9より6日間実施）

司会 皆様大変御苦労さまでした。皆様方の御感想等をお聞かせ願いたいと思います。今後の運営の参考にしますので御遠慮なく。

- A 形状記憶合金、セラミック、複合材料等日頃耳にしていることですが、この研修会でまとまった講義を受け、今までの単なる耳学問から一歩前進して、自分の知識として身につけることが出来て大変良かったと思います。
- B でも一般的すぎてもう少し踏み込んだ内容であつたらとの感じがしました。
- C 私は応用面での話が少なかったように思います。もっと実用面での新素材の活用や活用の見通しなどを期待していましたが……。

実用面での話に充実を

司会 皆様方がそれぞれ機械技術者であつたり材料技術者であつたりしますので、講義の内容に対する受取り方が違いますね。

D 将来的には初級コース、中級コース、あるいは機械系技術者のための新素材コースとか、材料技術者のための開発コース等の分類で研修会を考えられたらよいでしょう。

C 大学や研究所の先生ばかりでなく、企業の方を講師に招いて実用面での話を充実することも大切ではないでしょうか。

B 予め講義の内容についてのテキストを配布して貰えば、講義の後での実用面での動向等の質問も出来たのですが、今回はその余裕がありませんでした。

最新の機械に隔世の感じ

司会 実習については如何ですか。

A 最新の機械に直接触れてビックリしました。以前に同種のものを使った経験がありますが、隔世の感じがしました。

D あれもこれも実習するよりは、コース毎にテーマを設定して実習をしたほうが良かったのではないのでしょうか。

司会 研修会の開催時間等の御希望は？

B 今まで大阪まで出張して受けていたこの種の研修会を、県内で受講することが出来て時間的に大変楽になり参加しやすくなりました。

A 私の場合は会社の終業時間の関係で、六時開講にして欲しい。また昼間の集中

講義をも混ぜて貰えば良いと思います。

司会 その他何か御意見はありませんか。

C 参加者相互の交流（ギブ・ギブンの時間）をもっとふやせばよいと思います。あの時間は少なすぎるし、もっと交流の場が欲しいと思います。

D この技術研修でお互いに知り会つたチャンスを活かして将来、例えば新材料研究交流会と云つたようなものに発展することになれば良いと思います。

司会 大変貴重な御意見有難うございました。



60年度の研修とセミナー

● 技術研修

コース名	内 容	日 時	受講者数
新素材利用技術 コース	金属材料、セラミック材料、高分子材料等の 現状と開発動向。材料特性の試験法	60・9・9～9・20 6日間	28名
プラスチック応 用技術コース	高分子と高分子複合材料の開発動向と各種材 料特性。製品開発のあり方。評価試験法の実 習。	60・9・24～10・14 10日間	36名
食品加工技術 コース	バイオテクノロジーの応用事例と展望。熱処 理保存技術。冷蔵・冷凍保存技術。真空パッ ク・ガス充填保存技術。保存材料。	60・10・15～10・30 9日間	21名
管理者のための パソコンコース	パソコンの活用事例。プログラム概念。周辺 装置。表計算、グラフ、図形のソフト試作の 実習。	60・11・5～12・7 11日間	20名
メカトロニクス コース	メカトロシステム事例。モータ。各構成要素。 サーボコントロール。センサ。インターフェ イス。マイコンプログラム。ソフト開発ツ ール。ノイズ対策。応用プログラム演習。	61・1～61・3 28日間程度	定員 20名

● 科学技術セミナー

〈9月13日〉

金属基複合材料の現状と今後の
開発動向について

科学技術庁航空宇宙研究所

山中 龍夫氏

〈10月22日〉

形状記憶、超弾性合金の
開発状況について

古河電工 根岸 朗博士

〈12月21日予定〉

① 生産現場におけるロボット活用上の問題
点と画像処理技術の導入について

日本アイ・ビー・エム株式会社野洲工場

塚田 裕氏

② これからのロボット制御技術と知能ロボ
ットの開発状況について

京都大学工学部 渡部 透博士

なお、技術研修のカリキュラム内容につい
ては産業界と工業技術センターとが一体とな
った「技術研修専門部会」で検討されたもの
です。(専門部会は現在まで4回開催)

運営方針

中堅・中小企業の技術レベルアップと
大企業との共存共栄を

目指して

我国産業の輸出競争力や生産性は裾野を形成する巨大な中堅・中小企業群により支えられています。滋賀県に於いても例外ではなく、当県の製造業事業所数は四、四六〇（五十九年十二月末現在）で、うち従業員数九十九人以上の中堅・中小企業の数は一七七にのぼります。これらの企業は直接的に県内立地大企業との結びつきを強めつゝありますが、未だ技術レベルが十分とは言えずその技術開発力、経営力に多くの課題を残しているため、日進月歩の技術ニーズに対応しきれていないのが現状です。

当協会事業の運営方針は、これら中堅・中小企業の技術レベルアップとそれを通じての県内立地大企業との共存共栄を目指すところにその基本があります。このため当協会が最重要視しているポイントは、今何が十分で何が十分でないか、今何が問題なのかなど、お互いが率直に知り合う場を設定することです。

例えば技術研

修を実施中では

が、単に最新の

技術知識情報を

得るだけに止ま

らず、参加者同

志で大企業と中

堅・中小企業が互

いに知り合い話し

合う場が

自然に設定されて

います。

第二は、今一流の

科学者・技術情報

人を可

能な限り滋賀栗東

の森に招くこと

です。情報

時代でありなが

ら、なお可成り

の滋賀県産業



費やして情報収集

に出向いている

現状を少し

でも緩和し、競

争時代の時間・

節約を果して

参りたいと考えて

います。

事業内容の紹介

かよいあう心と技術

技術研修と科学技術セミナー

4つの特色

特色1

企業のキャリアアデイベロップメントプランへの参加をめざす。

（具体例―「管理者のためのパソコンコース」）

特色2

先端性、戦略性、アット・ナウ（今の問題解決）をめざした内容設定につとめる

（具体例―「新素材・プラスチック・メカトロコース」）

特色3

ノーハウからノーフー（WHO）の時代に移りかわりつつあります。多くの友を得よう！

（具体例―「技術体験発表」「ギブ・ギブン」等のシンコー・オリジナルソフトを研修の中に挿入）

特色4

大阪へ一日がかりのムダをなくす。

「わが国のオーソリテイ」を多数講師に招く。

工業技術振興の拠点をめざして

財団法人 滋賀県工業技術振興協会

理事長 高田 三郎



この度、栗東町の美しい自然の中に、滋賀県工業技術センターがオープンし、県民の永年の夢が実現いたしました。御承知の如く滋賀県は高度成長期を通じ工業出荷額は湖南を中心に飛躍的な伸長が続いております。特にエレクトロニクスを中心とした高度技術産業が目立っております。このような時代に技術センターの設立は誠に時宜を得たものであると思っております。言うまでもございませんが人々のニーズは、多様化、多元化、個性化がますます顕著になっておりますが、このようなきびしい環境に対処して行くためには

長期的な視点に立って技術シーズの育成に努めねばなりません。滋賀県工業技術振興協会はこのような視点を踏まえ、工業技術センターと表裏一体となって、情報、技術研修などのソフトな部門を主な業務として発足致しました。官民共同出資による第三セクター方式で、柔軟かつ機動、効率をねらいとしてフレキシブルに動ける体制を取っております。特に技術研修につきましては、企業の業種に応じたキャリアアデイベロップメントプログラムを揃え短・中・長期の研修を行い人材育成に努めます。フェーストゥフェースによる人的交流を積極的に広め、双方向による人間交流により、技術交流や、新製品開発に寄与します。また研究開発に欠くことの出来ない情報検索は、日本科学情報センター、日本特許情報機構とネットワークを結び、企業の要望に応じてまいります。関係各位の積極的な御活用と御支援を心からお願い申し上げます。

テクノネットワーク

かよいあう心と心
SINKO

(財)滋賀県工業技術振興協会

〒520-30 栗太郡栗東町上砥山232 (滋賀県工業技術センター内)
TEL (0775) 58-1530・FAX (0775) 58-1373

創刊号
1985.

かよいあう心と技術

— 第三セクターで対応 —

(財)滋賀県工業技術振興協会は、県下経済六団体と滋賀県が共同出資し、第三セクター形式で設立されました。柔軟・機動・効率をモットーに技術人材の育成・技術者交流・技術情報の提供等ソフト施策を担当し、滋賀県工業技術センターと一体となつて県の技術振興につとめます。琵琶湖にできた一本の湖流(こりゅう)をやがてビッグな力強い工業技術振興の湖流に育てあげるため、みなさまの暖かい御支援をお願い申し上げます。

